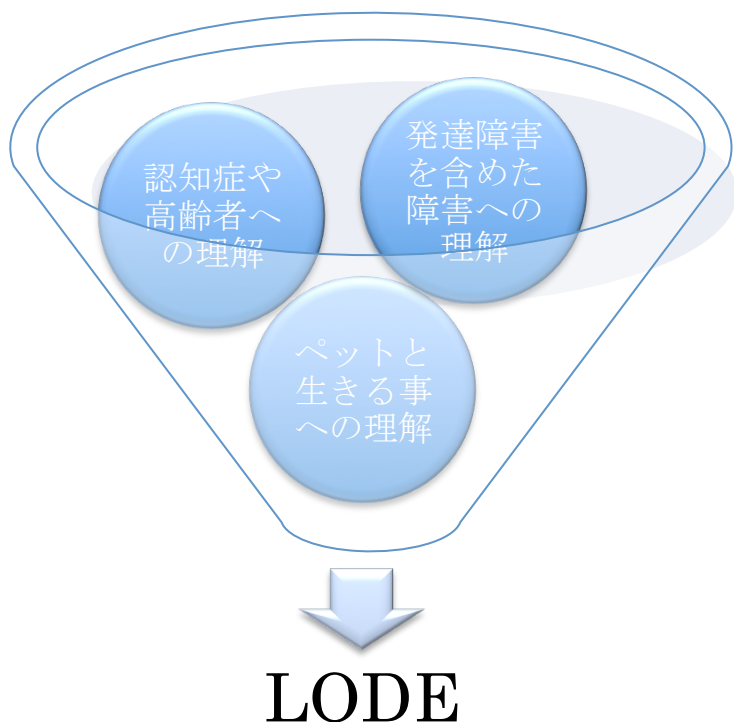


LODE の真の目的

●マップを埋める事だけが、私たちが提唱する LODE の目的ではありません。

LODE は、これまでの緊急時の避難を目的とした DIG とは違う、学び合いの場の提供に重きを置いた新しい形の災害シミュレーションであり、団地の見守り体制づくりを目指すものです。

『老いの理解』『障害の理解』『子どもの行動』そして、『ペットに関する理解』を学ぶ機会としても非常に有効です。



★高齢者のこと（認知症のこと等）や発達障害の子ども達の特徴を学ぶことは、避難行動時に役立つだけでなく、避難所などの共同生活の場において悲しい誤解やトラブルを防ぐために有効だと思われます。そしてこれらは、日常の見守り活動にも必要な知識と言えます。

★多くのマンションや中高層公営住宅団地ではペット飼育が認められていません。しかし犬猫等のコンパニオンアニマルは、独居高齢者の不安や孤独感を緩和したり、認知症の進行を遅らせる効果を期待できるとも言われています。今後ますます少子高齢化が進む中で、我が国でも欧米先進国並みの“ペットとの共生社会化”を検討していくべき時にあるのではないのでしょうか。

●団地の環境資源の確認をします。

『生きる力を育む研究会』では、住民相互の学び合いの次に、自分たちが暮らしている場所の資源の豊かさに気づける幻灯会も実施しています。地域や、団地の魅力をみんなで再発見・再確認することで、住民のコミュニティ意識の醸成を図ります。



環境資源をみんなで確認する幻灯会を行った延藤安弘さん（元千葉大学教授）。



災害時の『高齢者三種の神器』についてお話する南部美智代さん。